

第三の新人

静岡図書館友の会 会員 鍋倉 伸子



カット：鍋倉伸子

電車の中ではスマホを見る人ばかりです。情報を得るだけでなく、読み物も目にすることができ、通信もできて便利だからでしょう。一度バスで前の座席の若い男性が熱心に見ているスマホを後ろから覗くと漫画でした。そんな中、意地で(!)本を広げています。このところ手にする本は「第三の新人」の小説が多いです。「第三の新人」は、新人といっても、すでに故人となっている人ばかりで、大正7年生まれの亡父と同世代です。よく亡父も「俺の中学の友達の三分の一は戦死した」と言っていて、「割を食った世代」とも言われます。父に「軍隊ってどういうところ？」と訊いたことがあります。父は「サラリーマンと同じだ」と答えたのに驚きました。父は名簿から漏れて(?)南方の戦地に行かず、内地勤務で終戦を迎えたため、そのように思ったのかもしれませんが、大学繰り上げ卒業で父が初めて学生の身分を離れて入った社会集団が軍隊だったのは、初めて(過酷な)会社に入ったようなものとも言えるでしょう。「第三の新人」の代表格である安岡章太郎(1920-2013)もその作品「遁走」の中で「加助(主人公)は一瞬のうちにこれまでの彼の前半生とは完全に切り離されたところへ立たされてしまったのだ。」と書いています。私が「第三の新人」に親しみを覚えるのは、父親の世代ということもありますが、体験(軍隊体験が多い)を基に書いていること、文体や表現が重々しくなくて分かりやすいということもあります。



安岡章太郎
『戦争小説集成』
中公文庫刊

コロナ下の巣ごもり生活で本がよく読まれた時期、志賀直哉、尾崎翠、林芙美子などの「ちくま

日本文学」シリーズを何冊か読みました。このシリーズは全40巻ですが、改めて見ると「第三の新人」は誰も含まれていないことに気づきます。というより、大正生まれが、かろうじて大正14年生まれのみ三島由紀夫だけです。明治生まれの内田百閒や芥川龍之介から始めて、昭和生まれの開高健、澁澤龍彦、寺山修司が入っているのに何故でしょうか。安岡は「……軍隊とは、内面的には、私たちの一人一人が背負っている過去の一部であり、外面的には、私たちの家庭や、部落や、農村や、都会や、国家や、そういうもののあらゆる要素をひっくるめた日本社会の原像とでも言うべきものかと思われる。」と述べています(「イヤな故郷」)。何を話していても軍隊の話になってしまうというこの世代が何故敬遠されたのでしょうか。戦後生まれ世代が86%を超えたといわれる現在、軍隊経験なんて過去の遺物でしょうか。連合赤軍事件について安岡は自分の経験した軍隊の内務班と同じで驚いたと言っています。「集団と個」は私たちの変わらぬテーマともいえます。

図書館では郷土史の本を借りることが多いのですが、昔読んだ安岡章太郎の単行本が家で見つからなくて、清水中央図書館で『夕陽の河岸』を借りました。晩年に書かれた短編集ですが、陸軍幼年学校に行った幼なじみが、訓練中の事故ではなく行軍で体を壊して亡くなったと後で分かる「夕陽の河岸」、戦時下の夜中に街を歩いていて出会い、いつまでもついてくる黒いシェパードの「犬」等、しみじみとした味わいが印象に残ります。



安岡章太郎『夕陽の河岸』
新潮文庫刊
版元品切れ、電子版配信



静岡図書館友の会運営委員

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻は、いまだ出口が見えません。そして世界各地でも、戦争や紛争が続きます。戦後78年目の2023年の夏、静岡図書館友の会運営委員それぞれが平和について改めて考える機会を持ちました。運営委員のオススメの本や映画、活動について紹介します。

『絵で旅する国境』 クドル/文 ヘラン/絵
なかやまよしゆき/訳 文研出版

人間の都合で引かれた目に見えない線、国境線。世界を旅した韓国の作者がその光景を絵本にしました。鳥のように自由に国境を越えることは難しいけど、「線を越えて生まれる出会い」を信じたい。(土屋)

映画「あの日の声を探して」(2014年製作 フランス・グルジア合作) カンヌ国際映画祭 脚本賞・監督賞 etc.

舞台は1999年のチェチェン紛争時。目の前で両親を射殺された9歳の少年がショックで声を失う。流浪の果て、姉弟と再会するヒューマンドラマ。語る目の表情が深く心に刺さる。当時プーチン氏は首相だった。(醇)

『そらいろ男爵』 ジル・ボム/文 ティエリー・デデュー/絵 中島さおり/訳 主婦の友社

戦争や争いを、絵本の世界では時にユーモアやナンセンスを武器として解決してくれる。絵本の主人公“そらいろ男爵”は、戦闘で砲弾になるものをさがし飛行機から落とすのですが、それが何と男爵お気に入りの本や兵士の家族からの手紙。落とされた砲弾を読んでいくうちに兵士たちは戦いの愚かさに気づき、ついには戦争をやめることになるのです。大人にも読んで欲しい奥深い作品です。(増田)

『憲法九条を世界遺産に』 太田光、中沢新一/著 集英社

憲法に平和思想の基、戦争放棄を明記する国は日本だけだ。お笑い芸人太田光氏と学者中沢新一氏、毀誉褒貶の2人の対談。宮沢賢治と憲法・平和憲法は世界の珍品・お笑いは世界を救えるかと続き多角的視点から九条擁護論を展開する。帯の写真は若々しい2006年発刊。17年後の今九条の輝きが急速に奪われつつある。再読したい。(太田)

『ちきゅうパスポート えほん作家から地球の子どもたちへ』 BL出版

24人の国内外の絵本作家による手のひらに乗る、まさにパスポートサイズのジャバラ絵本。今の地球に生きる子どもたちに希望をという願いを込め、作家たちが描いた個性豊かな「想像の国」が広がります。(あ)

『月にハミング』 マイケル・モーバーゴ//作 杉田七重/訳 小学館

第一次世界大戦下のイギリス、シリー諸島。無人島で救助された記憶と声を失くした少女の再生の物語です。戦争の悲惨さを声高に訴えるのではなく、国を超えて存在する友情や愛情が描かれることで、いっそう戦争の愚かさについて考えさせられます。(Y)

『戦争と平和 子どもと読みたい絵本ガイド』(草谷桂子著)が、子どもの未来社より刊行されました。



リアルな戦争の映像が身近な生活の中に否応なく入って来る時代です。悩みつつ選書した204冊の絵本から、「当たり前の平和の尊さ」と「絵本の中の多様な世界観」が大人を介して子どもに伝わりますように! 図書館の資料と職員のおかげでできたガイドブックです。(草谷桂子)



この度、表紙絵を描かせていただきました。ひなげしの花は“非戦”の象徴です。そこに、性別・年齢・人種が異なる様々な人たちを描くことによって「つながり」を表現しました。今まで漠然としか考えてこなかった「平和」について、真剣に考えるきっかけになりました。(尾崎幸)



原爆が投下されてから78年目の8月6日に、絵本からみた平和のこと、戦争のことを草谷桂子氏に語っていただくトークイベントをArt Book Shop りぶらりおで開催しました。

人と人との分かり合えなさを、分かり合えないものとして受け止めることの大切さを感じました。(アサイヤスコ)



静岡平和資料センターをご紹介します

静岡平和資料センター長 田中 文雄
(静岡図書館友の会代表)

静岡平和資料センターは「静岡平和資料館をつくる会」が運営しています。「つくる会」の前身は1971年に発足した市民有志による「静岡市空襲を記録する会」です。この会は市民から空襲の体験手記・体験画を募集、出版し、また展示会を開きました。1988年には新たに静岡市に公設の資料館の建設を要請、この活動は、今も続けています。静岡平和資料センターは1993年に市体育館に開設された後、相生町を経て、2008年現在地の伝馬町に移転しました。

静岡平和資料センターは現在、ボランティアによって「資料部」「展示部」「団体見学部」「文庫部」「広報部」「調査研究部」「証言映像部」「所蔵資料展示」の8部門で活動しています。また金・土・日曜日の11時から16時まで展示を見ることができます。展示は所蔵展「静岡の戦争と空襲」「大日本帝国の戦争と静岡」「静岡の街を焼いた空襲」「敗戦後の静岡と日本と世界」と企画コーナー展示「世界の軍事費・日本の防衛—5兆円あれば何ができる?」(1/13~11/26)です。みなさん、小さな資料館ですが、お出かけください。

センターでは、今受付のボランティアを募集しています。金・土・日曜日の11時~16時を2交代で行います。お問合せ tel. 054-271-9004



センター入口の焼夷弾展示

ここからホームページが見られます→





活字文化議員連盟総会に参加して

静岡図書館友の会運営委員 佐久間 美紀子

活字文化議員連盟の決議

6月15日に、活字文化議員連盟(以下活字議連)と学校図書館議員連盟の合同総会が開催されたので参加してきました。

会場は参議院議員会館の講堂。入り口で空港みたいなセキュリティチェックを受け、受付で首にかけるタイプの通行証をもらって中に入ります。事前申し込みをすれば誰でも傍聴できたので、会場には全国の図書館友の会会員や、図書館・学校図書館の関係者が大勢集まっています。

この総会で「公共図書館改革に関する要望書」「学校図書館の改革に関する要望書」が審議され、それぞれ各議連の方針として決議されました。

公共図書館改革に関する決議では5つの項目の実現に取り組むことがうたわれています。

1. 会計年度任用職員制度、指定管理者制度を検証し、公共図書館のあり方を考える会議を設置する
2. 図書館職員の非正規雇用率を改善し、待遇改善を促す
- 3・4. 読書環境のバリアフリー化をすすめる
5. 地域書店・福祉施設と連携するなど、地域社会に貢献する施策をすすめる

会計年度任用職員とは

会計年度任用職員とは、従来の非常勤職員・臨時職員・パート職員に変わる非正規職員です。

低賃金・不安定雇用の問題をかかえ、度々マスメディアに取り上げられるようになりました。

2016年の調査では、地方自治体の非正規職員は64万人以上、行政の職員の5人に1人の割合ですが、図書館司書や学芸員などに限って言うと、それが10人に6人以上の割合まで上がります。

図書館司書の仕事はご存知のとおり、資格だけでなく知識や経験の蓄積がサービスの根幹を支えています。そうした職種が不安定な非正規雇用になれば、当然市民サービスの低下を招くでしょう。

また総務省の調査では、会計年度任用職員の7割以上を女性が占めているそうです。活字議連の総会では、冒頭の挨拶に「図書館の非正規職員の問題は働く女性の問題でもある」と言われたのはこのことを指します。

女性が専門職として安定して働き続けられるようになることが、図書館などの公共サービスの維持・向上に欠かせない条件なのです。

公共図書館プロジェクト

図書館友の会全国連絡会(図友連)では、8月5日、活字議連会長の上川陽子議員と面談しました。「図書館・博物館・公文書館は国家の基本です」と言われたのが印象的でした。

議連では今年秋から新たな勉強会を企画しているそうです。「オープンな勉強会にしたい」ということなので、図友連もぜひ傍聴に行こう、と話し合いました。

参考 カレントアウェアネス-R
<https://current.ndl.go.jp/car/184459>



図書館からこんにちは

突然ですが皆さんは、「りんごの棚」はご存じですか？

スウェーデンの図書館発祥の、「すべての子どもたちに本を読む喜びを知ってもらうため、みんなが楽しめるバリアフリーな本を集めた棚」のことで、言語障害のある子どものために作られた、りんごのおもちやが由来となっています。

「バリアフリーな本」と一口に言ってもたくさんの種類があります。点字付きの本や、絵や図で読みやすく書かれたLLブック、大活字本、布絵本、音声と文字と画像を合わせて読むことができる、マルチメディアデージーなどがあります。

静岡市立図書館でも昨年2月頃から南部図書館に

「りんごの棚」ができました！

静岡市立中央図書館 主事 関 綾乃

始まり、中央図書館でも「りんごの棚」を設置しております。バリアフリーな本の中から、点字付き絵本、LLブック、子どものための大活字本などを集めました。

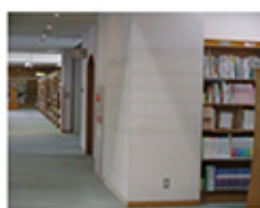
特別なニーズをもつお子様はもちろん、福祉関係の調べ学習にもお使いいただけます。点字付き絵本は、文字だけでなく絵まで凹凸があるものがあり、触って楽しいですし、懐かしい児童文学も大きな文字の本が置いてあるので、大人の方も楽しみいただけます。

今後は、それぞれの図書館の利用者のニーズに合わせて、より良いものにしていければと考えております。



市内図書館ニュース

薬科図書館は現在大規模改修工事のため休館中です。薬科図書館の開館は平成元年で、築35年となり、施設の老朽化に伴い、設備機器等の更新を行うことになりました。現在6月に荷物を一部運び出し、館内は少しさびしい雰囲気です。



休館中は、薬科図書館で購入した新刊を他の11館の薬科特設コーナーに配架し利用できるようにし

静岡市立薬科図書館 大規模改修工事について

静岡市立薬科図書館 主査 渡邊 友美

たり、薬科図書館の隣接地に移動図書館を運行し、貸出・返却等のサービスを提供しています(2週間に1回程度、金曜日の13:45～14:45)。



この記事が載る9月頃は工事真っ只中です。改修後は、照明のLED化、トイレの洋式化など、どの世代にとっても利用しやすく、薬科地域の良さを感じられる図書館を目指します。

令和6年4月中旬頃を予定しているリニューアルオープンをお楽しみに！





朝比奈ちまき

静岡図書館友の会 会員 大石 美代子

藤枝市岡部町殿地区に「ちまきの井戸」と呼ばれている古い井戸がある。そのむかし、この水を使って人々はちまきを作っていたという。

今川家に仕えていた朝比奈家に伝わる古文書には

「朝比奈家先祖密法の北ちまき、古事、堤中納言兼介公よりこの家に伝来す。このちまきの妙、年経るも味を失わず、食するに一両日空腹の心配なし。故に戦場には武将専らこれを愛玩す。今川公、武田公にも献上す。徳川家康公の御代、彦坂九兵衛に数度献上の仰せつけあり。その都度御目録拝領す。」とある。

保存食で日持ちもよく戦場には欠かせないものであったらしい。作り方の秘伝は、椿の木の灰汁を使って、米を浸したり、蒸したり、手返しの手水に使うと、いう細かい覚書もある。

朝比奈家に伝わるこれらの古文書は、平成5年に、郷土史家の池谷圭次氏が読み解いたもので、「古文書を読み解く」勉強会で披露され話題になった。

勉強会の会員から「復元させたい」という声が上がリ、「朝比奈ちまき保存会」が発足された。以後、地元の人たちや和菓子屋さんの協力で「朝比奈ちまき」は復元された。

その直後、保存会から「ちまきづくり」を子どもたちにやさしく解説したお話を作って欲しいと「岡部おはなしの会」に依頼があり、『あさひなちまきものがたり』と題して大型紙芝居にして提供した。絵は宮崎清子さんが担当された。

保存会の活動も広がり、朝比奈第一小学校での体験学習へも協力して、子どもたちの郷土愛をはぐくんでいる。また、岡部中学校の3年生には、高校受験を前に、合格祈願をして、ちまきを提供している。その時には紙芝居にした『あさひなちまきものがたり』がたびたび上演されている。

手作りの紙芝居は、15年余りの時を経て読み継がれているが、当初は1クラスの生徒数も多かったため、全紙のボール紙一杯に絵を描き、コーティングしているため、大勢のところでは威力を発揮していた。ところが、現在の学校事情から、少人数に対応できる「手に持てる絵本が欲しい」との声があり、最近、A4判の小型絵本にした。

「ちまき保存会」の会員さんからは、令和4年4月に文化庁の100年フードに「大井川のお茶漬け食品」として「あさひなちまき」が認定されたから、小型絵本が活躍できると、期待をよせられている。

『あさひなちまきものがたり』絵本は、おやかた様が、村中の人を呼び寄せ、駿府の大御所様へ献上するちまきづくりを描いたもので、病身の母に代わって、娘のぬいが隣の家のばあちゃんの手伝いをしながら、ちまきづくりを初体験するという物語にした。その中に秘伝である椿の灰汁をどうとるか、それをどう使うかを体験させている。

絵本は「保存会」の人たちをはじめ、ちまきに興味を持つ人から、人づてに広がり、近隣の町の子どもの手にもわたっていると聞く。

ちまきの里にある「縁カフェ」の食事処で、保存会の人たちと共同で作る「あさひなちまき」が常時、食べられるようになった。日持ちして、食べたら一両日腹持ちがよくて、必ず勝ち戦につながったという歴史の味を、次世代からまた次世代へと、永く伝えたいという熱い意気込みが伝わる。

猛暑日でも「ちまきの井戸」は草に埋もれて、今も冷たい水を静かにたたえている。



筆者と絵本『あさひなちまきものがたり』



静岡図書館友の会では、今年度の事業として秋の安曇野への研修旅行を企画しました。安曇野ちひろ美術館では、本年度記念講演会講師の松本猛さん（ちひろ美術館常任顧問）が、美術館の見どころをご紹介します。

参加ご希望の方は、下記の要領で9月25日（必着）までにお申し込みください。

みなさまのご参加をお待ちしております！



- 日時 2023年10月10日（火） 7:00～19:00 JR 東海ツアーズ催行
JR 静岡駅 集合・出発 7:00…… 碓氷美術館着 10:20…… 出発 11:00……
大王わさび農場着 11:40…… 昼食…… 出発 13:00…… 安曇野ちひろ美術館着
13:25…… 出発 15:25…… JR 静岡駅着・解散 19:00 頃
- 募集人数 27名
- 参加費 10,000 円（昼食代、碓氷美術館・安曇野ちひろ美術館入館料込み）
※参加人数が定員に満たない場合、参加費が高くなる可能性があります。その場合、事前にお知らせします。また、余剰が出た場合、会の活動費に寄付させていただきますことご了承ください。
※参加費は当日朝、現金にて担当者にお支払いください。

- 申し込み方法：①研修旅行参加申し込みの旨、②参加者の氏名、③同行者がいれば同行者の氏名（ご家族のご同行可）、④連絡先（携帯電話番号などの電話番号）を明記し、メールあるいは往復ハガキにてお申し込みください。
- メール：sizutomo2008@yahoo.co.jp
※件名を「安曇野研修参加申し込み」としてください。
- 往復ハガキ：〒420-0866 静岡市葵区西草深町 9-12 太田典子宛（研修旅行担当）
※返信ハガキに参加者（代表者）の氏名・住所を明記の上お送りください。
- 申し込み締め切り：9月25日（月）必着（先着順・定員になり次第締め切り）



いわずきちひろと師・中谷泰

没後 50 年 初山滋展 見果てぬ夢

ちひろ美術館コレクション 冒険する子どもたち

会期：2023年9月9日（土）～11月30日（木）

展覧会の詳しい内容などは、ちひろ美術館 HP（chihiro.jp）をご覧ください。

安曇野ちひろ美術館 〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24



いわずきちひろ
赤い帽子の男の子1971年



安曇野ちひろ美術館(外観)



● 秋の安曇野研修旅行 参加者募集中!

日時: 10月10日(火) 7:00~19:00

詳しくは本号7ページをご覧ください。



● しずとよフェスタ 2023 「家康公と遊ぼう!」

日時: 10月29日(日) 9:30~17:00

場所: 静岡市立中央図書館



- ① おはなし会・デイズー図書視聴体験 10:00~
- ② たたらなおき氏ワークショップ「つくって学ぼう家康公!」 13:00~14:30
- ③ たたらなおき氏講演会「マンガで知ろう!家康公」 15:00~16:30
- ④ 図書館ツアー 15:00~

※詳しい内容は、チラシをご覧ください。

● 2024年度総会・角田光代氏記念講演会

日時: 2024年3月10日(日) 14:30~16:00 (13:15~14:15は総会の予定)

場所: 静岡県総合研修所 もくせい会館 富士ホール

作家の角田光代さんをお招きし、対談形式での記念講演会を予定しています。

~会員のみなさまより、角田さんにお聞きしたいことをメールにて募集します~

- 2024年1月末日メ切
- 「2024年講演会 質問」等の件名で sizutomo2008@yahoo.co.jp までお送りください。
- 寄せていただいた質問全ての採用が難しい場合もございます。ご了承ください。

※詳細が決定しましたら、会員の皆様にはお知らせし、当会HPに掲載します。

● しずともHPリニューアル計画中です

より見やすく、魅力的なホームページを目指し、「ホームページ検討委員会」が始動しました。乞うご期待!

● 学習会 詳細が決定しましたら、当会HPにてお知らせします。

静岡図書館友の会会報 No.30 2023.9
静岡図書館友の会 代表 田中 文雄
Eメール: sizutomo2008@yahoo.co.jp
HP: <http://shizutomo.sakura.ne.jp/>
会員数:193人(2023年8月1日現在)

編集後記

今年も暑い夏でした。(書いている今は、猛暑真っ只中。会報ができる頃には、少し過ごしやすくなっていることを願います。) 特集ページはいかがでしたか? イギリスの児童文学作家マイケル・モーバーゴの『戦火の馬』や『ガリバーのむすこ』なども、紹介したかった作品です。(Y)